

冬春夏秋

ゴシキメクラチビゴミムシ

体長約5mm。五色台のごく狭い範囲にしか分布していない甲虫の一種。成虫は、後翅が退化して飛べず、枯れ沢などの石下など湿った地中に生息する。



冬春夏秋

マイマイカブリ

体長30〜65mm。幼虫も成虫も主に陸貝を襲って食べる。成虫は陸貝を食べるのに適した細長い頭胸部に進化した。主に地中で生活する。



五色台の昆虫

五色台で独自に進化した種、五色台が県内での数少ない貴重な生息地となっている種、五色台北部の玉川河口周辺が四国で唯一の生息地となっている種もいる。

冬春夏秋

フタスジナサエ

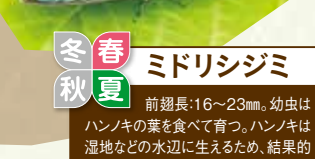
体長43〜48mm。かつては、香川県内では丘陵地のため池などで普通にみられたが、現在はため池の水質悪化の影響などで、ほとんど見られなくなった。五色台の一部の池で生き残っている。



冬春夏秋

ミドリシジミ

前翅長16〜23mm。幼虫はハナノキの葉を食べる。ハナノキは湿地などの水辺に生えるため、結果的にこのチョウの水辺環境に依存して生活する。五色台北部の玉川で見られる。



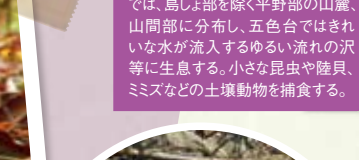
五色台の両生類・は虫類

五色台は乾いた環境が多い。そのためか、乾燥に強いのは虫類が14種も生息するのに、乾燥に弱い両生類は、6種しか確認されていない。

冬春夏秋

アカハライモリ

全長70〜140mm。県内では、奥しまるを越え平野部の山麓、山間部に分布し、五色台ではきれいな水が流入するゆるい流れの沢等に生息する。小さな昆虫や陸貝、ミミズなどの土壌動物を捕食する。



冬春夏秋

ニホンヒキガエル

体長70〜150mm。県内では、奥しまるや平野部の山麓、山間部に分布し、五色台ではきれいな水が流入するゆるい流れの沢等に生息する。動物プランクトンや小型甲殻類のほか藻類も食べる。



冬春夏秋

ニホンヒキガエル(卵)

3月になり生むかい風が吹き水温が約10度になると、水のきれいなため池や、湖などに産卵する。産卵は約1万個で、卵の長いものは30mmにも及ぶ。



五色台の汽水域の魚類

五色台の北部には五色台を源とする、青海川や玉川、亀水川が流れている。いずれも5km未満の短い河川だが、それぞれの河口にはハゼ類を中心に希少な魚類が多数生息している。

冬春夏秋

クボハゼ

体長約40mm。希少種だが玉川の河口干渉では普通にみられる汽水魚。アナジャコ類の巣穴を普段の生活場所や産卵場所として利用する。動物プランクトンや小型甲殻類のほか藻類も食べる。



冬春夏秋

チクゼンハゼ

体長約40mm。希少種だが亀水川河口にある前浜干渉では比較的よくみられる汽水魚。アナジャコ類の巣穴を普段の生活場所や産卵場所として利用する。小型甲殻類を主に食べている。



五色台の甲殻類

五色台の沢ではサワガニが多く生息するが、時折モクスガニも見つかる。玉川の流入する木沢川では46種ものエビやカニの仲間(十脚目)が確認されている。

冬春夏秋

ハクセンシオマネキ

甲殻長18mm。県内では玉川の干渉および奥しまるに生息し、五色台周辺では木沢川で確認されている。干渉時には果から出て砂を口にに入れて有機物や腐敗物を食べ、残りかすは砂団子にして団子にまきまく。



冬春夏秋

ハマダンゴムシ

体長約10mm。甲殻が少なく砂浜海岸に生息し、五色台周辺では小原海岸で確認されている。夜に砂から這い出て、打ちあがった海藻や藻を食べ、残りかすは砂団子にして団子にまきまく。



冬春夏秋

ハリマムシオガイ

殻長3〜3.8mm。兵庫県の南の中国地方と四国の瀬戸内海沿岸部に分布する。本州と四国が海に隔てられていたことを示す生きた証人。里山の樹木や寺社の古木、山林の落葉下などに生息する。



冬春夏秋

トサマイマイ

殻長9〜14mm。県内では讃岐山脈を主たる生息地としながら五色台にまで分布を広げている。林の中の落ち葉が豊富に積もったカシ場に生息する。



五色台の貝類

五色台及びその周辺ではそれぞれの環境に適応した様々な貝類が暮らしている。森林では68種の陸貝、池や川では16種の淡水産の貝類、河口では10種の汽水産の貝類、木沢川では63種の海産の貝類が生息している。

冬春夏秋

ハリマムシオガイ

殻長3〜3.8mm。兵庫県の南の中国地方と四国の瀬戸内海沿岸部に分布する。本州と四国が海に隔てられていたことを示す生きた証人。里山の樹木や寺社の古木、山林の落葉下などに生息する。

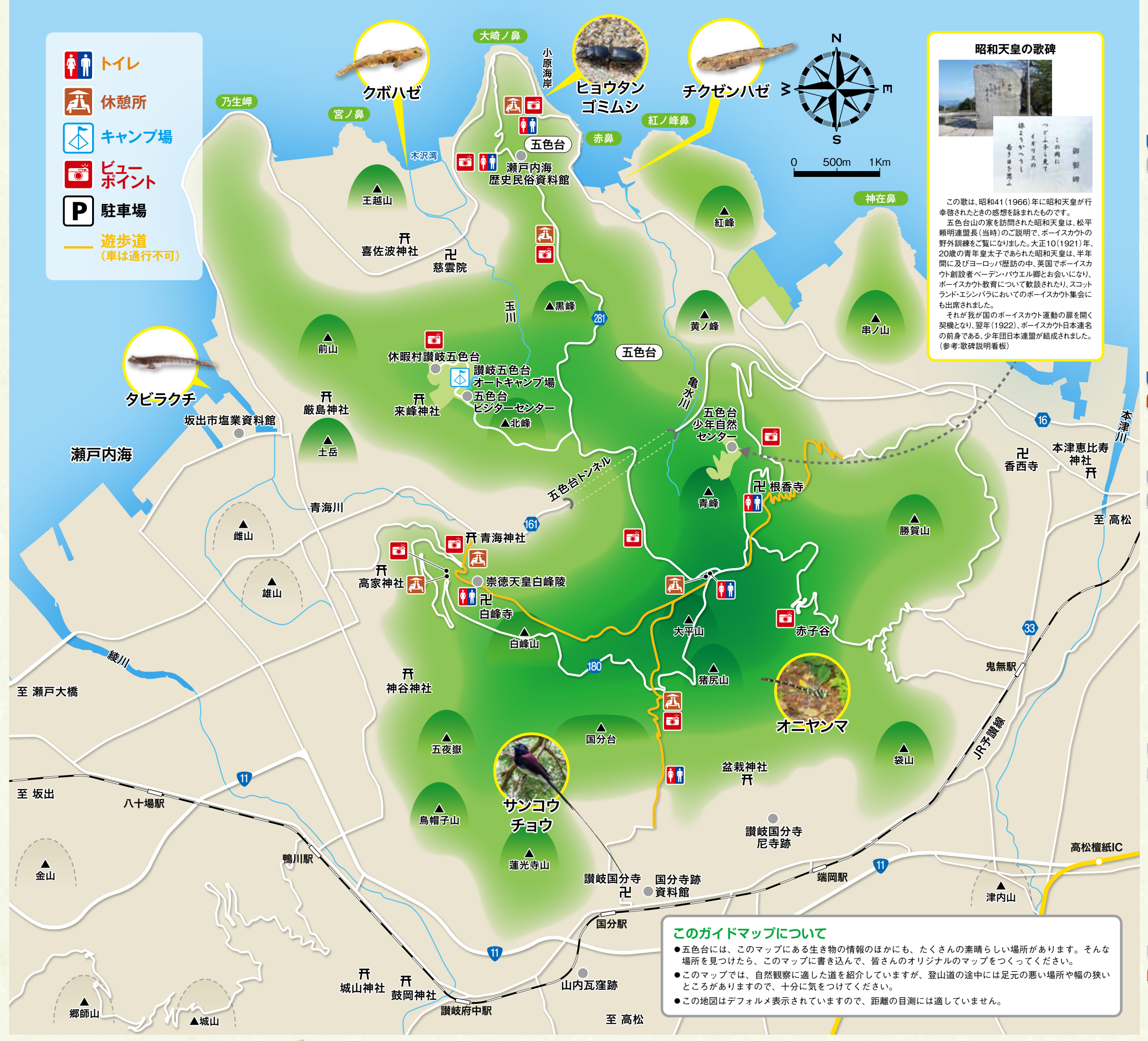


冬春夏秋

トサマイマイ

殻長9〜14mm。県内では讃岐山脈を主たる生息地としながら五色台にまで分布を広げている。林の中の落ち葉が豊富に積もったカシ場に生息する。





昭和天皇の歌碑



この歌は、昭和41(1966)年に昭和天皇が行幸されたときの感想を詠まれたものです。五色台山の家を訪問された昭和天皇は、松平頼朝(頼朝)の歌碑で、ボイスカウトの野外訓練を鑑みられました。大正10(1921)年、20歳の青年皇太子であられた昭和天皇は、半年間に及びヨーロッパ歴訪中、英国でボイスカウト創設者バーデン・パウエル卿とお会いになり、ボイスカウト教育について歓談されたり、スコットランド・エジンバラにおいてのボイスカウト集にも出席されました。それが我が国のボイスカウト運動の幕を開く契機といわれ、翌年(1922)、ボイスカウト日本連盟の前身である、少年団日本連盟が結成されました。(参考:歌碑説明看板)

冬春夏秋

ツリスガラ

体長約11cm。ヨシの葉を口ばしで割って、中にいるカイガラムシ類を食べる。ヨシは河口、川岸、海岸などの水辺に生えるため、この鳥は結果的に水辺環境に依存して生活する。五色台北部の玉川で見られる。



冬春夏秋

キジ

体長58〜80cm。山地から平野部の林や明るい草地に生息し、五色台では繁殖期に道路脇で縄張り宣言をするオスを見かける。雑食性で、昆虫類や陸貝、クモ、ヘビなどの小動物や、植物の葉や花、実、根などを食べる。



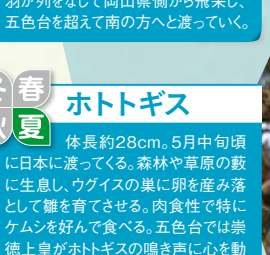
五色台の鳥類

五色台及びその周辺では、これまで144種の鳥類が確認されている。大崎の鼻は瀬戸内海に突き出て、すぐ先には小槌島や大槌島があるため、危険をさけながら、なるべく素を瀬戸内海を渡りたい鳥にとって、渡りの良い中継地点となっている。

冬春夏秋

ヒヨドリ

体長約30cm。市街地を含む、ある程度樹木のある環境に生息する。秋の大槌島では多いときには数百羽が飛来し、五色台を越えて南の方へと渡っていく。



冬春夏秋

サシバ

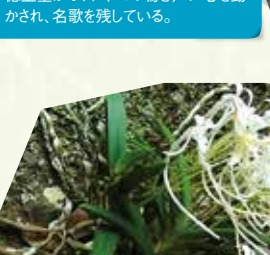
体長47〜51cm。4月頃に日本に渡ってくる。里山に生息し、主に両生類や爬虫類、昆虫類などの小動物を食べる。秋の大槌島ではヨドリと同じように岡山県側から飛来し、五色台を越えて南の方へと渡っていく。



冬春夏秋

ホトトギス

体長約28cm。5月中旬頃に日本に渡ってくる。森林や草原の森に生息し、ウグイスの巣に卵を産み、卵を育てて雛を育てる。肉食性で特にカミカミを好んで食べる。五色台では雄鳥がホトトギスの鳴き声に心を動かされ、名を競っている。



冬春夏秋

キビヒトリシズカ

体長20〜30cmで、明るい林床に生える植物。多年草で、県内では平野部の丘陵・山麓の樹林下に生育する。近年は樹木がうっそうと茂ったために、減少している。野生することが多い。



冬春夏秋

フウラン

体長10〜20cmの多年生植物。常緑多年草で、太い根を長く伸ばして、常緑広葉樹林に生えている大木の枝や梢に張り付いて生育する。岩に生えることもある。



冬春夏秋

リンドウ

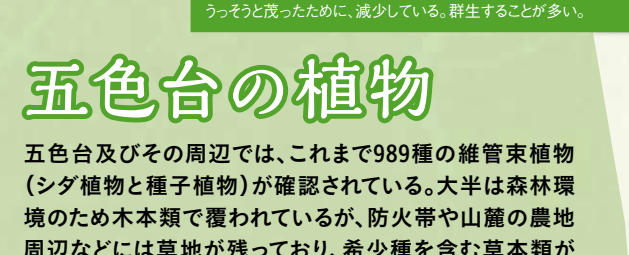
草丈20〜30cmで、半日陰の草地に生える植物。多年草で、主に中山間部の山林の林縁部、農耕地周辺の草地で生育する。群生せず単独で生育する。



冬春夏秋

マツグミ

樹高30〜50cmの半常緑性の植物。常緑小低木で、マツやモミ、ツガなどの針葉樹に半寄生する事が知られている。県内では海岸線から山地のマツ類を主な宿主とする。



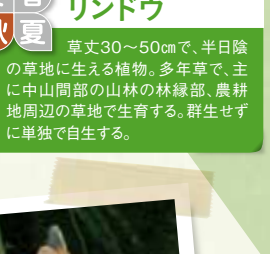
五色台の植物

五色台及びその周辺では、これまで989種の維管束植物(シダ植物と種子植物)が確認されている。大半は森林環境のため木本類で覆われているが、防火帯や山麓の農地周辺などには草地が残っており、希少種を含む草本類が細々と生き残っている。

冬春夏秋

アカギツネ

頭胴長60〜75cm。五色台の開けた場所で目撃されている。写真のようにウサギなどに動物を食べるが、雑食性で果実類も食べる。



冬春夏秋

イヌセンブリ

草丈約30cmの湿性植物。1年草で、自生した山麓の湿地やため池のふみなどで生育する。センブリに比べて味でも苦味が少なく薬用にならないことから、「食たず」の意味の「イヌ」が名前の頭に付けられた。



冬春夏秋

コギンバイザサ

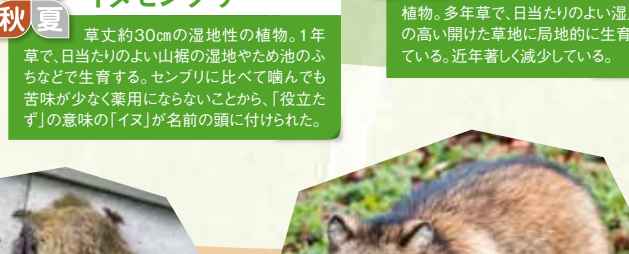
草丈20〜30cmの草性の植物。多年草で、日当たりのよい湿度の高い開けた草地に局地的に生息している。近年著しく減少している。



冬春夏秋

アブラコウモリ

頭胴長40〜60mm。主に樹高100m以下の平野部の木や市街地に生息する。肉食性で(昆虫)の活動が活発となる夕方と明け方に飛翔し、空中で捕らえて食べる。冬季は冬眠する。



冬春夏秋

タヌキ

頭胴長50〜60cm。市街地から森林まで様々な環境に適応して生息する。ミミズやカエルなどの小動物や果実や種子など様々なものを食べる雑食性。



冬春夏秋

ヒヨコタケ

傘は直径4〜8cm。柄は非常に短くほとんど無く、傘の下面は鮮やかな赤色。広葉樹や針葉樹の傷口から菌が侵入して、幹などの木材を分解して養分を吸収する白色腐朽菌。群生する。



冬春夏秋

キツネノハナガサ

傘は直径2〜4cm。柄は長さ4〜8cmのガラス細工のようなキノコ。森林や竹林の落ち葉などを分解して養分を吸収する腐生菌。単独で発生する。



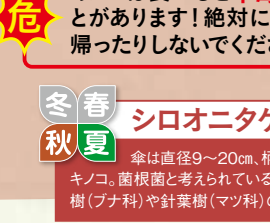
五色台の菌類

香川県では、これまで647種が確認されており、五色台では312種(香川県全体の約48%)が見つかった。

冬春夏秋

シロオニタケ

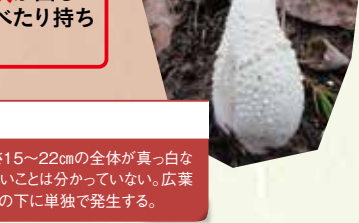
傘は直径9〜20cm。柄は長さ15〜22cmの全体が真っ白なキノコ。菌根菌と考えられているが詳しいことは分かっていない。広葉樹(ブナ科)や針葉樹(マツ科)の樹木の下に単独で発生する。



冬春夏秋

ヌルデタケ

傘は直径2〜5mm。柄は長さ3〜5mm。結んで固くない広葉樹などの木材を分解して養分を吸収する白色腐朽菌。小型で正面から見ると、団子状の傘が群生して置かれた下に見える。



冬春夏秋

ドクベニタケ(左)

傘は直径3〜10cm。柄は長さ4〜8cmの様々な広葉樹や針葉樹と共生関係を持つ菌根菌。森林の林床に散発的もしくは単独で発生する。生食すると中毒することがある。



冬春夏秋

テングタケ(右)

傘は直径4〜25cm。柄は長さ5〜20cm。ブナ科のコナラやクスギと共生関係を持つ菌根菌。単独で発生する。毒性が強くハエがなると中毒することからハエトリタケとも呼ばれる。



冬春夏秋

ハクセンシオマネキ

甲殻長18mm。県内では玉川の干渉および奥しまるに生息し、五色台周辺では木沢川で確認されている。干渉時には果から出て砂を口にに入れて有機物や腐敗物を食べ、残りかすは砂団子にして団子にまきまく。



冬春夏秋

ハマダンゴムシ

体長約10mm。甲殻が少なく砂浜海岸に生息し、五色台周辺では小原海岸で確認されている。夜に砂から這い出て、打ちあがった海藻や藻を食べ、残りかすは砂団子にして団子にまきまく。

